

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-41

部門名： 地域とともにある学校実践部門	エントリー名： 長野県伊那市立長谷中学校
活動名： 中学生にできる地域おこし ～唐辛子を使って中学生が六次産業化～	
解決すべき課題： ①長野県伊那市長谷地区は過疎化の波が止まらず、年々人口が減少。長谷中学校も開校当時の 360 名から約 10 分の 1 の全校 41 名となった。南アルプスジオパークの美しい景観を持ち、農業で生活を支えていた住民の大半を高齢者が占めるようになると、空き地や使われない田畑が多く見られるようになり、耕作放棄地が増えてきてしまっている。人口減少に伴う若者離れ、景観の荒廃に生徒も故郷の衰退を憂いている。 ②学校行事で地域を歩くと、誰も住んでいない家や一人暮らしの方に会う。生徒と地域の方の会話する姿を見ると高齢者の方々は若い世代と顔を合わせ会話をすることを望んでいると感じた。 ③長谷地区は高齢化が進み、仕事を引退して家にいる方、一人暮らしの方などが多いが、その方々が何かの目的をもって外出したり、人と会ってコミュニケーションをとったりする機会がほとんどない。また、学校現場は総合的な学習の工夫やキャリア教育を積極的に推進しているが、学習や部活動に多忙な生徒たちにとってはさらなる負担となり、特色ある学習は形骸し、満足感を得られる活動になっていなかった。	
目標・方針： ①栽培が容易で鳥獣食害のない「八房唐辛子」に注目し、地域食材として認知度を上げる。 ②中学生と地域住民とで、長谷地区の耕作放棄地に八房唐辛子を植えることで、土地の再利用をすること、秋には真っ赤に実る唐辛子による景観保全を目指す。 ③生徒が自らの足で自分のふるさとを歩き、地域住民と触れ合うことを通して、過疎化が進む長谷地区の現状を知り、「中学生にできること」で地域を盛り上げる活動を行うと共に、自分のふるさに誇りを持つ心を育む。 ④長谷地区の高齢者や障がい者施設、老人介護施設の方々に仕事をさせていただき、生産から加工、販売まで長谷地区内での「6次産業化」を目指す。	
活動内容： → すべて生徒が主体となって動く ①中学生が唐辛子の種まき、育苗を行い(5500本)、学校の畑で1000本を栽培。その他は地域住民に呼びかけ、自宅や自宅の遊休農地への栽培をお願いした。 ②常に学校開放を行い、生徒伝いや有線放送などで地域住民に声掛けをし、唐辛子に関する畑作業や加工作業への協力を要請し、生徒と共に活動を行ったり会話をしたりする機会を増やす。 ③学校行事にもなっている「長谷地区全戸パンジー配付」をはじめ、唐辛子の苗を配って歩く活動を通して、地域を歩き、地域を知る活動を行う。 ④収穫した唐辛子の実を加工して「ラー油」を製造し、長谷地区や市内の企業に置かせてもらい販売。地域の特産物として売り出す。 ⑤唐辛子の加工作業を中学校を訪れる高齢者や各施設(障がい者、老人介護)に委託し、ラー油での売り上げを賃金としてお渡しする体制を作る。 ⑥生徒が市内のさまざまなイベントに参加し、自分たちが行っている活動をPRしたり、ラー油を販売したりすることを通して、地域おこしにつなげた。	

活動の成果：



生徒たちは自分たちのふるさとを元気にするために活動。どんどんアイデアを出し、主体的に動けるようになった。

中学生にできる地域おこし
 地域人口の48%を占める高齢者の方々が元気になれば、ふるさとはもっと元気になる！中学生が起爆剤となり、ふるさと長谷を盛り上げる！合言葉は『唐辛子で長谷を真っ赤に！長谷をHOTに！』

- ・生徒が育てた苗をもらいに来校したり、共に学校の畑に定植する作業をしたりすることを通し、高齢者の方々の楽しみが増えた。
- ・耕作放棄地が再利用され、長谷の至るところが唐辛子で真っ赤に染まったことにより景観保全がなされた。
- ・地域の方々と月1の定例交流会だけでなく、いつでも地域住民が学校を訪れ農作業学習を共に行うようになり、生徒、地域住民とのコミュニケーションが増えた。
- ・長谷地区の多くのご家庭が唐辛子を育ててくださるようになり、この様子から行政や各種機関(社会福祉協議会や企業)も支援する体制を整えはじめた。



毎月最終金曜日に「長谷の縁側」という名称で定例の交流会を開き、地域の方々に学校を招いて共に畑作業をしたりお茶を飲みながらお話ししたりしている。



長谷中生と地域住民とで唐辛子を育てる



- ・この1年間では3000本のラー油を売り上げることができた。
- ・伊那市の「ふるさと納税の返礼品」に認められた。
- ・売り上げの一部は加工をしてくださる方々に賃金として渡す。
- ・長谷の太陽を宣伝・販売、また各種メディアに取り上げられたことで、地域活性につながり長谷の認知度が上がった。
- ・長谷地区の知名度も上がった。



中部 長野県伊那市
 カード決済可
 【AA-04】長谷中学校生徒オリジナル「地域を元気に！」と作ったラー油「長谷の太陽」
 寄附金額：5,000円

- ・ラー油の商品名は長谷が太陽のように輝く願いを込め「長谷の太陽」と命名。
- ・長谷に住む高齢者や地域の障がい者施設、老人介護施設の利用者に唐辛子の種取りや商品加工の雇用が生まれた。
- ・やりがい、生きがいを持って、中学校に足を運ぶ人が増えた。
- ・生徒と地域住民とコミュニケーションの場ができ、学校が世代間交流の拠点となった。
- ・商品加工に必要な機材(油搾り機や打栓機)は地域のお仕事を引退したお年寄りが腕を振って自作し寄贈して下さった。
- ・生産・加工・販売促進を通し、真のキャリア教育となりえた。



○調理、瓶詰、ラベル貼りなど、すべて手作業。
 ○オリーブオイル以外の材料(唐辛子、ネギ、ニンニク)は全て学校の畑で栽培。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- ・中学生が高齢者など地域全体を巻き込んだ活動を仕組むことで、学校が世代間交流の拠点となる活動を仕組んだ。
- ・自分たちが地域を活性化したという思いを実感することで中学生に自己有用感が育まれた。
- ・中学生のチカラの持つ無限の可能性を示した。